



JAL不当解雇撤回ニュース

No517号 2016.12.10
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

世のため
人のために



京都賞

授賞式抗議宣伝行動

～稲盛名誉顧問、貴方にも責任があります！～

11月10日行われた稲盛財団主催、京都賞授賞式に合わせて、4日間の京都行動が行われました。今年で32回目になる授賞式では、国内外の学者・文化人に一人5千万円の賞金が渡され今年の実受者は3名でした。稲盛和夫氏は現在 JAL 名誉顧問であり、2010年 JAL 破綻後、最高経営責任者に就任し、「整理解雇はしない」「解雇は断腸の思い、いつかお返ししたい」「解雇は必要なかった」「解雇は裁判所(管財人)がやったこと」等、これまで数々の発言があります。最高裁が認めた不当労働行為が行われた当時、経営トップであった稲盛氏は当然その責任から免れることはできず、解雇争議解決の為、尽力することが求められています。今すぐ、稲盛氏が指名した JAL 社長植木氏にその決断を促すべきです。

11/9 第6回京都支援共闘会議総会 in ラポール京都



脇田 滋主催者代表(龍谷大学法学部教授)が「不当労働行為の最高裁決定は、この取り組みを大きく発展させるきっかけとなった。これを力に最後まで闘おう」と力強い挨拶がありました。



11/10 京都賞授賞式前宣伝行動 in 国際会館



大勢の会館職員が配置されている地下鉄出口付近で13時半から15時まで、内田妙子団長をはじめ6名の争議団、共闘会議労組や支える京都の会の仲間32名による宣伝活動が行われました。階段を上ってくる正装した出席者達は横断幕に目をやり、ビラを手にしながら会場に向かいました。又、「路上駐車するな」という京セラ側の言に従い、京都総評の街宣車は会場周辺を、ずっと流し宣伝し続けました。授賞式には JAL 植木社長も招待されていたようです。

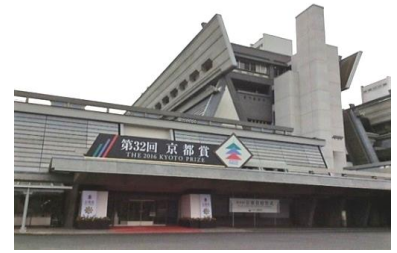
途中、内田団長、鈴木圭子副団長、京都総評梶川議長は京セラ関係者に“稲盛氏あての争議解決を求める要請書”を読み上げたのち手渡しました。梶川議長は「稲盛氏が不当労働行為に連座することで良いのか。解雇争議を解決することが、そうでない証明になる」と迫りました。対応者は「必ずお渡しする」と約束しました。



11/11

講演会場前宣伝行動 in 国際会館

12時から13時、受賞者の講演会会場（1700名収容）でも、宣伝行動をやりました。ビラの受け取り率は95%、1200枚のビラをまきました。京セラ警備員は慌てて駆けつけ「今日もやるんですか！？明日も？どこで？」としつこく聞かれ「明日もあさっても、ずっと来ます。稲盛会長に、解決すれば止めますと伝えてください」と返答しました。



国立京都国際会館

～国際会館でビラを受け取った人たちの声～

- ☆稲盛さんに解決してあげてと言うたらええねんな。来てはらへんかったら、何したらええの？
- ☆首切ったことない言うてたけど違うんやな。そんな事してたら、あのお方も成仏できへんな。
- ☆稲盛さんも、そんなんしとったらあかんわな。
- ☆がんばってな！



伏見大手筋商店街宣伝行動

15時から16時、稲盛氏の地元商店街で幟持ちビラをまきながら、ハンドマイクで練り歩き往復し、その後、横断幕を広げ、宣伝行動を行いました。「何があったの？まだやってんだ！」と争議を知っている人もおり、原告と話す光景がしばしば見られました。



11/12

講演会場前宣伝行動 in 京都大学

9時半から10時半、11日に続き国際会館でビラ配布を行いました。又、午後は京都大学時計台下講堂前でも宣伝行動を行ないました。

京都賞抗議宣伝行動は、提訴の年から始まって今年で6回目になります。3日間で1,800枚のビラを稲盛氏の地元京都でまき、確かな手ごたえを感じた4日間でした。ご参加の皆さま、ありがとうございました。

京都賞は1985年に始まり、それは、くしくも御巢鷹山墜落事故の年です。JALはその後、完全民営化となり様々な変化がありました。そして2010年JAL破綻の年、稲盛氏はJAL再建を託され、大胆な合理化を行い奇跡のV字回復と言われたのです。しかし、社員の退職が止まらないという、想定外のかつてない現状を稲盛氏にご存知でしょうか。企業にとって致命的ともいえるこの大問題解消のため、そしてその根源である解雇争議解決のため、稲盛氏自らが指名したJAL植木社長に対して助言すべきです。今、JAL経営陣は争議解決のため全く動こうとしません。それが何の意味も持たない事、そしてJALの成長を妨げている事を論すべきです。それは名誉会長としての責務です。最高責任者として始めたJALの再生劇の最終章をきちんと終わらせてください。「人として、何が正しいか考える」(JALフィロソフィより)時です。

